

平成28年度



みやぎ中学生いじめ問題を考えるフォーラム

宮城県教育庁義務教育課

大きな社会問題となっているいじめ問題について、中学生が学校の枠を越えて話し合い、その根絶のために自分たちは何ができるのかを考える「みやぎ中学生いじめ問題を考えるフォーラム」を開催しました。

平成24年度に始まり5回目*となった今回は、県内各地（仙台市を除く）59の中学校から、118名の中学生が参加して、生徒会等が主体となったいじめ未然防止の具体策について話し合い、ポスターにまとめて発表しました。

- **日時** 平成28年8月9日（火）9:45～15:10
- **場所** 県庁2階講堂
- **参加者** 県内公・私立中学校生徒118名（仙台市を除く）、引率教員等67名 一般8名
- **講師** ファシリテーター：A L L東北教育フェスタ（大学生・大学院生）27名
- **内容（概要）**

(1) 開会行事

○ 教育長挨拶



高橋 仁 県教育長が「各学校のリーダーとして、誰もが明日も行きたいと思える学校づくりの大きな力になってください。」と挨拶しました。

○ 知事メッセージ



村井知事は「いじめは自分たちの力で止めることができます。私は宮城県の中学生の力を信じています。」と、全県の中학생に向け、力強く語りかけました。

○ 教育委員会メッセージ



伊藤均教育長職務代行委員が「勇気をもってあなたの心を言葉や行動に表そう」と、教育委員会から県内の小・中学生に向けたメッセージを読み上げました。

○ ファシリテーターの紹介



ワークショップのお世話をしてくださるファシリテーターの方々を紹介しました。

今回もファシリテーターとして子どもたちの話し合いをサポートしてくださったのは、A L L東北教育フェスタに参加している県内の大学生・大学院生のみなさんです。代表の堀川彩佳さん（東北福祉大学4年）と千葉百華さん（宮城教育大学2年）が「いじめのない学校にするための取組について、一緒に話し合いましょう。」と挨拶しました。

* 第1回は平成25年2月に小学生を対象に、第2回は平成25年8月に小学生を対象に、第3回は平成26年7月に中学生を対象に、第4回は平成27年8月10日に小学生を対象に開催しています。

- 主催者紹介 県教育委員会からは、高橋 仁教育長をはじめ、伊藤 均委員長職務代行委員、佐竹えり子委員、遠藤雄三委員、奈須野毅委員が参加したほか、西村晃一教育次長、鈴木洋教育監兼教育次長、清元けい子参事兼義務教育課長等が参加しました。教育委員一人一人から、子どもたちに温かい励ましの言葉が贈られました。

★ カードを使って言葉に対する感じ方の違いを学びました（コミュニケーションリテラシー）

(2) ワークショップ I



★ 二人組になって、好きな食べ物や夏の思い出など互いを紹介し合うアイスブレイクから話し合いが始まりました。



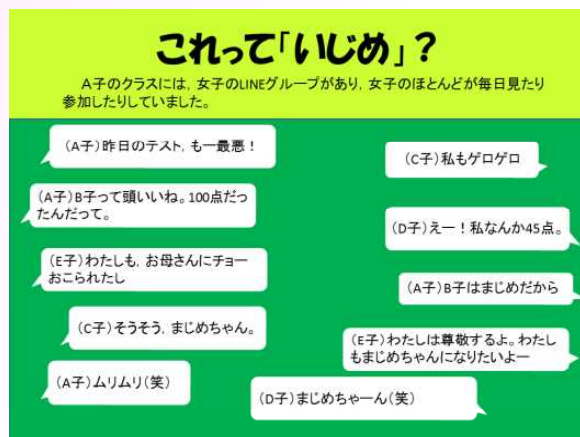
★ LINEカードでワークショップ

5枚のカードから自分が「言われて嫌な言葉」を選び、その理由を話しました。「まじめだね」「一生懸命だね」「おとなしいね」「個性的だね」「マイペースだね」どの言葉も普段よく使われる言葉ですが、選んだ言葉もその理由もそれぞれ違っており、生徒たちは人によって言葉から受ける印象が違っていること、無意識に相手を傷付けていることがあることを学びました。

(3) ワークショップ I その2～事例を通していじめの定義を学ぶ～

一つの事例をもとに「いじめとはどんなことか」について話し合いました。SNSでの何気ない言葉のキャッチボールだとしても、それを読んで苦痛を感じる人がいたら、それはいじめに当たるということを知ることによって、いじめに対する認識が変わった生徒も多かったようです。

大学性ファシリテーターに導かれながら、次第にうち解けてきた生徒たちは、自分が傷付いたり傷付けたりした経験を紹介し合い、そのときどうしてほしかったのか、どうすればよかったのか等相手のことを考えたコミュニケーションのとり方について考えました。



【感想】

- ・ 他校で取り組まれていることを本校でも実施したいと思います。
- ・ いじめというものが、とても深いもので辛いものだと言うことが改めて分かりました。他校との意見交換を行うことで、よりいじめについて話し合う事ができました。この経験をぜひ次の機会につなげたいと思います。
- ・ 緊張しましたが、とても良い経験になりました。これからも、いじめ対策を行っていこうと思います。
- ・ 他の中学校の人達とたくさんいじめについて話すことができ、これから自分の学校をより良くするために、今日考えたことを参考にしたいです。
- ・ 自分の考えを伝えやすく、これからは私の学校でもワークショップを活用していきたいと思いました。
- ・ 初めて会った人たちでも、いじめをなくそうと言う気持ちはみんな同じ。スムーズな話し合いができたと思います。
- ・ コミュニケーションを多く取ることができ、いじめへの本音、思いを伝えることができた。
- ・ 他校の方々との話し合いで良い経験になりました。これからの友達との接し方が変わり、学校の人にも教えられるようにしたいです。
- ・ 私は今まで「いじめ」というものは自分の学校には存在しないと思っていましたが、ワークショップを通して、もう一度ふるいにかけていかなければいけないと思いました。「声なき声」に耳をすまし、学校から、宮城からいじめをなくしたいです。
- ・ 自分がいじめる、いじめられる立場になったときの状況が、分かりやすく提示され、真剣に考えることができました。
- ・ 顔も名前も知らなかった人と、ここまで深いいじめについて考えられたのはとてもいい経験だったなと思いました。今日、他校の人からもらった意見やアイデアは今後の学校での取り組みに生かしていきたいと思います。
- ・ 自分が考えていなかった「いじめの原因」や「きっかけ」なども知れて、いろいろな角度から改めていじめを考えることができました。自分の学校でもよくあることが、他の学校でもあるということで驚きや発見も多かったです。

(4) ワークショップⅡ



準備してきた資料を使って自校の取組を発表しました。

👉 学校の取組を発表

事前に作成してきた資料（ポスター）に基づいて、それぞれの学校での取組を発表し合い、自校でも実施してみたい取組はどれかという観点で、期待できる効果や課題、課題を克服するためにすべきこと等について話し合いました。

各学校の生徒会が作成したポスターは、どれもよく工夫してまとめられており、各学校の取組がよく分かりました。



ワークショップⅠで話し合ったことをもとに、各校の取組と関連付けながら、模造紙に考えを書き込んでいました。

👉 グループのアイデアをまとめる

班として取り組んでみたいアイデアについて話し合いました。

午前中のワークショップでの話し合いや各学校の取組の発表を聞き、各発表の中から自校でも実施してみたい取組について話し合いました。

ファシリテーターからは、期待できる効果や課題、課題を克服するためにすべきこと等の視点が示され、生徒たちは、今行っている取組を見直しながら、いじめをなくしていくために必要なことは何か、自分たちができることは何かについて真剣に話し合っていました。

【感想】

- ・ 他の学校の行っている取り組みについて、知ることができ、自分の学校でもやってみようと思った。グループでいじめについて話し合い、考えをまとめることができ、とても有意義な時間でした。
- ・ 自分以外の班の人の考えまで、より深くわかりました。自分の学校でもやってみようと思った取り組みもあったので、今日の経験を学校生活に役立てていきます。
- ・ いじめについて、班内でいろんな対策の意見が出てきて、自分の学校でも試そうと思うものもいくつかあったので、活用してみたいと思います。
- ・ 思いつかなかった他の学校の活動を知ることができました。自分の学校でも、この経験を生かしていきたいです。
- ・ いじめについて、班内でいろんな対策の意見が出てきて、自分の学校でも試そうと思うものもいくつかあったので、活用してみたいと思います。
- ・ 今回のワークショップを通して、自分はどのような行動をとっていくべきなのか、また、学校全体でそのような取り組みをしていくべきかを考える機会となりました。今後、学校で、今日出た意見を教え、さらなるいじめをなくす努力をしていきたいと思っています！

(5) ワークショップⅢ

話し合いがまとまるといよいよポスターづくりが始まりました。短い時間でポスターにまとめる作業はなかなか難しいものですが、ファシリテーターのリードで上手に分担しながら、あるグループは黙々と、あるグループは賑やかに作業を進めていました。

考え出したアイデアを「〇〇プロジェクト」として、取組のポイントを簡潔にまとめたポスターは、とても分かりやすい発表資料になっていました。

(6) 発表



各グループ1分から2分という短い時間でしたが、全てのグループが、話し合いの成果を簡潔にまとめた資料に基づいて堂々と発表していました。

相談者の話しやすい場所で、いつでも話を聞いてもらえる『何でもBOX』、自分の長所を発表したり、友達の長所を当てたりする「MMプロジェクト（みんな違ってみんないいの略）」、誰もがHEROになれるようにサポートするプロジェクト、クラスで「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」をまとめ、全校で使っている言葉と使ってだめな言葉を掲示する「ちくふわ運動」など、中学生らしいユニークなアイデアやいじめなくしていこうとする意欲にあふれる取組がたくさん紹介されていました。

(7) 閉会行事

○ 生徒感想発表

参加生徒を代表して、富谷町立成田中学校2年生の三浦真菜香さんと気仙沼市立小泉中学校3年生の及川雅喜さんが感想発表を行いました。三浦さんは、「具体的な案を出すことができ、有意義な時間だった。これからの学校生活につなげていきたい。」とフォーラムでの他校生との交流や話し合いを振り返り、今後の活動への意欲を見せていました。



○ 先輩からのビデオメッセージ

宮城県にゆかりのある著名人として、東北楽天ゴールデンイーグルスの銀次選手と有名お笑い芸人であるサンドウィッチマンのお二人からいただいた、いじめ根絶に向けたビデオメッセージを上映しました。中学生の自主的な取組を応援する力強いメッセージを聞いて、生徒たちはいじめ根絶への決意を新たにしていました。



銀次選手（楽天イーグルス）



サンドウィッチマンさん

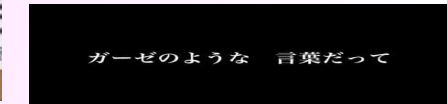
【感想】

- ・ いじめのない学校、社会を宮城から発信していきたいです。
- ・ お二組のメッセージから、改めていじめの悲惨さ、やられている方の辛さが分かりました。
- ・ メッセージありがとうございました！！私たち中学生が、いじめを防がなければいけないのだと改めて気づかされました。私もこれから取り組んでいきたいと思います。銀次さん、サンドウィッチマンさん、応援していますので、頑張ってください。
- ・ とても心のこもったメッセージをありがとうございました。自分達が一番いじめをなくせるように頑張りたいと思います。
- ・ 宮城県からいじめがなくなるように頑張ります。
- ・ いじめをする側の人間についても話していて、すごくいいと思いました。されている側の気持ちを理解していいなと思いました。
- ・ お二人が言っていたとおり、学校のいじめをなくすのは自分達なので、日々意識してたくさんの人とコミュニケーションをとり、一人一人と向き合って話していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 全国区に誇れる県になれるように、努めていきたいと思います。ビデオメッセージありがとうございました。
- ・ 有名人からのメッセージでいじめに関する取り組みに対するやる気が出ました。
- ・ 先輩たちも苦しいことが必ずあったと思うので、先輩たちの意見はすごくためになった。
- ・ メッセージを見て、先輩方と話していたことを守り、これからの学校生活を楽みたいです。
- ・ これから自分にできることをしていこうと思います。
- ・ 3人のメッセージのおかげで、いじめはしてはいけないという気持ちが強まりました。
- ・ いじめに気づいて注意できるのは、私たちしかないと改めて気づくことができました。私にしかできないこと、また私ならできるかもと思ったらすぐに行動に移したいです。
- ・ 「いじめは楽しくない、かっこ悪い」という言葉が心に残った。
- ・ とても心に残る言葉で良かった。
- ・ 3人のお話を聞いて、いじめは絶対許されないことだと改めて感じた。
- ・ 体験談なども交えて話していただき、とても身にしみました。
- ・ とてもためになるお話をありがとうございました。自分も生徒会として、いじめをなくしていきたいです。
- ・ メッセージ本当にありがとうございました！！先輩たちが気持ちよく帰ってこられる宮城にします！
- ・ 中学生のためにいじめ防止についてのメッセージありがとうございました。これから中学生が主体となって、宮城からいじめがなくなるよう努力していきたいと思います。
- ・ 仕事で忙しい中、僕たちのためにメッセージを送っていただき、ありがとうございました。僕たちもいじめ撲滅のため、精一杯頑張ります。お三方の活躍をテレビの前で祈っています
- ・ 銀次さん、いじめに対する熱い思い、サンドウィッチマンさんのいじめへの気持ちが分かりました。自分もやっつけまわらないよう、相手の気持ちを考えたいです。
- ・ 私たち中学生が、いじめをなくしていけるよういつでも向上心を持って頑張ります。
- ・ メッセージありがとうございます。これから、私たちは宮城から日本からいじめをなくしていきます。
- ・ いじめは許されないこと、恥ずかしいことであるということがよく分かった。
- ・ メッセージありがとうございました。私たちも、人がらしく生きる未来を作るよう精進努力します！
- ・ 自らが行動することの大切さに気づくことができました。（以下省略）

○ 全体講評

フォーラムの締めくくりとして、義務教育課長が全体講評を行いました。

講評の中では、キング牧師の言葉を引用しながら、いじめが決して許されないものであること、そして杉本深由起さんの詩※¹をもとに相手を思いやる言葉を使うことの大切さについて話し、フォーラムを通して感じたことを学校に戻って多くの生徒に伝えてほしいと締めくくりました。



[全体講評]

I have a dream that one day right there in Alabama little black boys and black girls will be able to join hands with little white boys and white girls as sisters and brothers※²

1963年8月、アメリカの首都ワシントンで、キング牧師は、

「私には夢がある。いつの日か黒人の少年少女と白人の少年少女が兄弟姉妹として手に手をとることができるようになるという夢である。」と人種差別をなくすことを訴えました。

人が人として平等に生きることを否定する人種差別、心や身体(からだ)の苦しみが生きていることさえ辛くさせるいじめ、みなさんはそれが決して許されないことを知っています。53年前のキング牧師の夢をこの会場に集まった全員の夢として、いじめのない学校をつくっていきましょう。

ここに一冊の詩集があります。「言葉の力でいじめを超える！」というサブタイトルの付いた「ひかりあつめて」という詩集を書いた杉本深由起さんの話を聞いてみましょう。

(杉本深由起さんのVTRを上映)

一つ読んでみます。

言刃

言葉は 言刃にもなると

わかりながら使うとき

もっとも するどい刃物になる

あるのにな

こころの傷口にそっとあててあげる

ガーゼのような 言葉だって

みなさんは、今日のワークショップで同じ言葉が、あるときは人を励まし、あるときは人を傷つけることを学びました。みなさんには、ガーゼのような言葉を使う人になってほしいと思います。そして、今日気づいたことや学んだこと、感じたことを学校に戻って全校生徒に伝えてください。

I have a dream ……私には夢があります。県内全ての学校からいじめで苦しむ生徒がいなくなる夢が。

※¹ 杉本深由起作「ひかりあつめて」(小学館)

※² 1963年8月28日ワシントンにおいて、マーチン・ルーサー・キングが人種平等と差別の終焉を呼び掛けた演説より

